

■第1回エコ改修検討会・環境教育検討会：黒松内町長・谷口徹氏挨拶

ただいまご紹介にあずかりました黒松内町長の谷口です。今日は、黒松内中学校の第1回の検討会開催にあたり、このようにたくさんの方にお集まり頂き、心から厚くお礼を申し上げます。特に、この検討会、中学校改修にあたりまして、アドバイザーの先生の皆さん方、環境省から渋谷室長、北海道教育委員会からそれぞれ多大なご協力を頂いておりますことに深く感謝申し上げます。

黒松内中学校は昭和53年に校舎、54年に屋体が新築され、27年が経過し体育館の窓枠の腐食を始めとする老朽化と耐震性の不足から、(改築による総合的な耐震改修)も予定致しております。この53年というのは私が町の建設課長をしていた頃で、建物の新築に直接携わった経緯がございます。

今回、環境省と文部科学省の連携によりまして、学校改修時のゴミや二酸化炭素の排出を抑え、地球温暖化を防止するハード面での改修と、学校での環境教育をセットで行うということにより、効果的なエコ改修の実施が出来る大変喜んでおります。皆さん、学校を見ておわかりの様に相当老朽化しており、窓枠も腐食しておりまして、いつ窓枠が落ちるかわからないということで、何年か前から教育長が予算要求をする時に、当面は改修を(一時的なものも含めて)やらなければダメだという強い要請がありました。しかし少し改修するだけでも何千万もするので「補助制度もない中ではできない。そんなに心配なら教育長の方が学校に行って、見ていて

ください」というようなやり取りもあり、今日まで来ました。しかし本年から3年間のモデル事業として全国で10校、道内では1校の指定を受けた事業で、本町の今までの環境施策や学校教育の成果が評価を受けて指定を受けた訳でございます。

私ども黒松内町のまちづくりをする上でいつも大切にしているのは、町にある環境をいかに大事にしていくか、又それらをどう守っていくかということに常に気を使っているもので、そういったことが、今回指定を受けて今まで我々がやってきたことがそれなりに評価されたんだなあと思いでいるところでございます。

学校は、地域のシンボルとして、様々なスポーツや文化活動に利用されており、地域生涯学習の拠点としての役割、また災害時の避難場所等様々な活用方法が図られている施設でございます。自然エネルギーの活用や高断熱化、内装の木質化により、エコロジーとエコノミーを両立させて、明るく暖かく、エネルギーのロスが少ない学校づくりと、地震に強い、安全で安心な学校づくりができることを、我々も目標にし、また今回の事業ではそういったことを強く考えながら進んでいきたいと思っております。どうか、検討委員の皆様、ご指導頂ける先生方、黒松内中学校を、モデルにふさわしい学校改修・学校づくりができますことを、心よりお願い致しまして私のお礼の挨拶とさせていただきます。

これからもよろしくお願い致します。